第３回男女平等参画推進会議における主なご意見と区の考え方（修正等）について

【意見①】

「包括的性教育」の計画における扱いについて（言葉自体の記載、所管課の考え方など）

【考え方（修正等）】

（P.32　事業番号 5）の事業概要と所管課を下記のとおり修正しました。

教育指導課だけでは「はどめ規定」の関係上、取組が難しい部分があるため、所管課に総務課を追加し、人権の概念を含めた性教育に関する考え方の理解促進など、取組を補完するとともに、事業概要については、発達段階に応じた性教育の内容を具体的に追記することとし、「包括的性教育」という言葉自体の記載は見送りました。

旧	5	性教育の充実	発達段階に応じた性教育（性被害、性自認・性的指向を含む。）を実践することにより、直面する性に関する様々な事柄に対し、適切な意思決定や行動選択ができるよう指導する。	・教育指導課
新	5	性教育の充実	人権尊重を基盤に、人間関係、ジェンダーや多様性への理解、幸福など様々な視点から、発達段階に応じた性教育~~（性被害、性自認・性的指向を含む。）~~を実践することにより、直面する性に関する様々な事柄に対し、適切な意思決定や行動選択ができるよう指導・啓発を~~する。~~行う。	・総務課 ・教育指導課

【意見②】

理工系分野で活躍する女性を育成するためには、保護者の理解や、キャリア形成に関わる情報提供という視点も重要ではないか。

【考え方（修正等）】

（P.33（3）理工系分野で活躍する女性の人材育成）の説明文を下記のとおり修正しました。

旧	科学技術・学術分野の進展を加速させるには、多様な視点や発想を取り入れていくことが重要ですが、理学、工学分野の学生における女性の比率は少なく、研究者に占める女性の割合も国際的にみて低い水準となっています。理学、工学分野への女性の参画を促すため、理系分野に対する興味や関心、理解を向上させる取組を推進します。
新	科学技術・学術分野の更なる進展のためには、多様な視点や発想を取り入れていくことが重要ですが、理学、工学分野の学生における女性の比率は少なく、研究者に占める女性の割合も国際的にみて低い水準となっています。理工系分野で活躍する女性の人材を育成するため、若年層やその保護者を対象に、理系分野に対する興味や関心、進路選択やキャリア形成に関わる情報の提供、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の解消を進める取組を推進します。

【意見③】

（P.33（3）理工系分野で活躍する女性の人材育成）の事業番号 8 及び 9 は、（P.32（2）生涯学習における学びの機会提供の推進）に該当するのではないか。

【考え方（修正等）】

事業番号 8 及び 9 を（P.32（２）生涯学習における学びの機会提供の推進）の事業に追加し、（P.33（３）理工系分野で活躍する女性の人材育成）の事業としても残して、再掲 8、再掲 9 としました。

【意見④】

（P.26　3 施策の方向性に対する目標と成果指標）の「SOGI」、「LGBT」の認知度について、目標値が消極的ではないか。

【考え方（修正等）】

認知度は着実に高まってきていますが、現状は、目標値に対して 10%以上の乖離がまだ生じているため、目標値は据え置きといたしました。

【意見⑤】

（P.48（1）ジェンダー平等や「女性・平和・安全保障（WPS）の視点に立った災害時対応」の事業番号 38 に関して、女性が意思決定に関わる環境の整備を明記してほしい。

【考え方（修正等）】

（P.48（1）ジェンダー平等や「女性・平和・安全保障（WPS）の視点に立った災害時対応」の事業番号 38 を下記のとおり修正しました。

旧	38	避難所運営における女性等への配慮	女性をはじめＬＧＢＴＱ等当事者の視点に配慮した避難所運営を推進するため、専用の更衣場所、トイレ、洗濯物干し場等の設置とともに、女性、ＬＧＢＴＱ等当事者の声が届きやすい環境づくりを行う。	防災危機管理課
新	38	避難所運営における女性等への配慮	プライバシーの保護や性被害などの犯罪防止など、女性の視点に立った避難所運営を図るため、各班のリーダーやサブリーダーに男性と女性の両方を配置するなど、女性が避難所運営の意思決定に関わる環境を整備する。 女性をはじめＬＧＢＴＱ等当事者の視点に配慮した避難所運営を推進するため、専用の更衣場所、トイレ、洗濯物干し場等の設置とともに、女性、ＬＧＢＴＱ等当事者の声が届きやすい環境づくりを行う。	防災危機管理課

【意見⑥】

（P.82（3）区職員への意識啓発、ジェンダー主流化及び人材育成）の説明文について、なぜ女性の参画が必要なのかという視点を明記されたい。

【考え方（修正等）】

（P.82（3）区職員への意識啓発、ジェンダー主流化及び人材育成）の説明文を下記のとおり修正しました。

旧	政策・施策の企画立案段階からジェンダーの視点を組み込む「ジェンダー主流化」の考え方は重要です。区職員への意識啓発に加え、政策・施策の企画立案段階からジェンダーの視点を組み込む人材育成を進めます。
新	ジェンダー平等及びジェンダーの視点をあらゆる施策に反映する「ジェンダー主流化」を進めるため、区職員に対して、職員研修等を通じて、ジェンダー平等意識の向上を図ります。 また、職員が出産・育児・介護に係る休暇・休業制度を安心して利用できるよう、職場全体で積極的に支援する体制づくりや、職員が自らのキャリアプランを主体的に考える研修を実施するなど、女性職員の管理監督職への登用も促進し、多様な視点を政策に反映していきます。

【意見⑦】

（P.48（1）ジェンダー平等や「女性・平和・安全保障（WPS）」の視点に立った災害時対応）について、町会など地域との連携が重要である。

【考え方（修正等）】

（P.48（1）ジェンダー平等や「女性・平和・安全保障（WPS）」の視点に立った災害時対応）について、下記のとおり修正しました。

旧	文京区では、地域防災計画に「妊産婦・乳児救護所」、女性・こどもの二次的な避難所としての文京区男女平等センターの活用などを位置づけています。また、災害対応時には、女性をはじめ LGBTQ 等当事者などの様々な視点を考慮する環境づくりを行います。 さらに、国の計画にも位置づけられている「女性・平和・安全保障（WPS）」の考え方も踏まえながら、ジェンダー平等の視点に立った災害時対応も進めていきます。
新	災害発生時には、女性やこども、ぜい弱な状況にある人がより多くの影響を受けることが指摘されています。文京区では、地域防災計画に「妊産婦・乳児救護所」、女性・こどもの二次的な避難所としての文京区男女平等センターの活用などを位置付けていますが、災害対応時には、女性をはじめＬＧＢＴＱ等当事者などの様々な視点を考慮する環境づくりを、町会など関係団体と協力しながら行います。 さらに、「女性・平和・安全保障(ＷＰＳ)」の考え方も踏まえながら、ジェンダー平等の視点に立った災害時対応を進めていきます。

【意見⑧】

（P.40（2）当事者等による相談場所や交流の機会の提供）に関して、最近、非交流型の居場所施設の必要性について言及されることもあるので、ご検討をお願いしたい。

【考え方（修正等）】

現時点では、非交流型の居場所施設の設置は検討しておりませんが、引き続き、当事者の方のご意見等を踏まえながら、だれもが自分らしく暮らせる環境づくりを進めていきたいと考えております。